



版画Fan



2023年 春夏号

自然という書物

— 15～19世紀の ナチュラルヒストリー&アート —

The Book of Nature: Natural History and Art from the Fifteenth
to the Nineteenth Century

2023年3月18日(土)～5月21日(日)

前期:3月18日(土)～4月16日(日) 後期:4月18日(火)～5月21日(日)

観覧料:一般900(700)円

大学・高校生450(350)円 ※中学生以下は無料

※()内は20名以上の団体料金

※初日3月18日(土)と開館記念日4月19日(水)は入場無料

※シルバーデー(毎月第四水曜日)3月22日と4月26日は65歳以上の
方は入場無料

読み解かれ描かれる世界のすがた・かたち

「自然という書物」展は、15世紀から19世紀までの西洋のナチュラルヒストリーとアートのつながりに注目し、人間が表してきた自然のすがた・かたち(画像)を紹介する展覧会です。

古くから人間は動物や植物をはじめ、肉眼では捉えることができない生物、さらには地球上の地勢や地質などの自然を観察し、記録してきました。とりわけ、言葉と絵によって表された自然の画像の普及に、活字と版画などの印刷技術が大きな役割を果たしてきたことは特筆すべきでしょう。

さらに自然は、今日にいたるまで美術の靈感源となってきました。木版や銅版、石版などの版画の技法はもちろんのこと、美術の多様な表現手法が自然の図解に用いられてきたことも見逃せません。

本展では「第一章 想像と現実のあわい—15、16世紀」、「第二章 もっと近くで、さらに遠くへ—17、18世紀」、「第三章 世界を分け、腑分け、分け入る—18、19世紀」、「第四章 デザイン、ピクチャレスク、ファンタジー」の四章構成によって、紙上に息づく多種多様な自然のすがた・かたちを紹介します。「自然という書物」展のねらいのひとつは、版画による自然物や自然環境のイラストレーション(図解/挿絵)の歴史をたどることによって、どのように自然は記述・描写されてきたのか、どのように自然は見られ、考えられてきたのかを明らかにすることです。

実は展覧会のタイトルも西洋の自然観を反映したトポス(常套表現)です。世界が神によって創造されたとするキリスト教の考えかたでは、自然のあらゆるものも神の被造物と見なされていました。神学者たちが「第一の書物」である聖書の一語一句に神の真意や隠された意味を見出そうとしたように、自然も神の御業の徴が刻まれた読み解かれるべき「第二の書物」、すなわち「自然という書物」と考えられていたのです。このような神を中心とした西洋の自然観に変化の兆しが見え始めたのが15世紀でした。この時代から人間の自然に対するまなざしから段々と信仰や伝承などが影を潜めていき、実際の観察や詳細精緻な分析などを通じて、現在の科学的なまなざしへとつながっていくのです。

もちろん、今日に至るまでにはさまざまな出来事や発見・発明などがありました。薬物として効能のある植物の木版挿絵をはじめ、寓意・象徴のモチーフとして動物が登場するアルブレヒト・デューラーの版画、過去・異国・地下などを活写したアタナシウス・キルヒャーの書物、顕微鏡の発明によって明らかとなったミクロの世界を描写した銅版挿絵、詳細かつ精緻な自然の情報一枚の絵の中に表そうとしたアレクサンダー・フォン・フンボルトの自然画など、200点以上の出品作を一堂に会する本展も、多様な読解をうながす一冊の書物となるはずで

ご期待ください。

(学芸員 藤村拓也)



ロバート・ジョン・ソントン『フロラの神殿』

(1798～1807年刊)より

銅版(多色)、手彩色 当館蔵

※新型コロナウイルスの影響で会期に変更が生じる可能性があります。

友の会だより

友の会アートスクール「銅版画講座」に参加して 2022/12/10(土)～2023/1/28(土)全6回実施

版画美術館工房

初めての銅版画

昔、好きだったイラストレーターが、銅版画の作家だと知ってからずっと、銅版画への憧れの様なものがありました。昨年偶然にも友人が、こちらの講座に毎年参加していると聞き、今回 私も参加させて頂く事となりました。美術館自体、素敵な環境の中にあり、そこでの講座は ほんのぼのとした雰囲気、楽しく制作する事が出来ました。初めての銅版画は難しい技法などもありましたが、女性の講師の方が優しく丁寧に教えて下さいました。集中して物を作り上げる事が楽しく、毎回時間が足りないくらいで、私にとって貴重な日々となりました。



友の会会員 杉原 和世

友の会アートスクール「木版画講座」に参加して 2022-7/27(水)～ 9/7(水) 全6回実施

版画美術館アトリエ

“アトリエはとても和やかな雰囲気”

3年前に年賀状1日教室にて木版画を習ったのをきっかけに、友の会「木版画倶楽部」に入会し制作活動を楽しんできました。ただ入門書等を参考にするだけでは我流の域を出ないままでした。そういうなか木版画倶楽部の方からの勧めもあり今回の講座に参加させていただきました。

大平歩先生はとても温和でアトリエはとても和やかな雰囲気に満ちておりました。下絵の色分解、切り出し彫刻刀の使い方、濃淡をつけた摺り方などきめ細かい指導は、本当に勉強になりました。来年も夏休みは木版画講座に充ててぜひ参加したいと思います。



大平先生ありがとうございました。

友の会会員 野村泰穂

友の会アートスクール絵画教室「やさしい水彩画講座」に参加して

版画美術館アトリエ

“夢中で過ごした 楽しい時間”

今年も楽しみにしていた水彩画講座が始まりました。初日のモチーフは、先生が準備してくださった、ポルトガルの港ポルトの夕暮れの風景写真です。これまで描きたくてもすぐに陽が沈み、描けなかった夕暮れの空を、どのようにして表現されるのだろうか。水をたっぷり用紙に含ませ、先生のデモンストレーションはすぐに始まりました。徐々に色を重ねて空の色が描かれます。ドライで残すところ、滲みを利用するところ、マスキングを駆使すると、夕暮れの風景が仕上がっていきます。一人ひとりアドバイスをいただき、やがて参加者それぞれの個性的な作品もできあがります。

2022/10/7(金)～11/4(金)全5回実施



最後に先生のご指導が入ると、グリーンとグレードアップ。二日目は各自それぞれが思い出の写真を持ってきて「水彩画」に。三日目は、一人ひとりに“ばら”（バラの花）が配られデモンストレーションから。マスキングのテクニック、たらしこみ、スパッターリング、今まで知らなかったいくつかのテクニックを教わりながら三日間、夢中で過ごした楽しい時間でした。

友の会会員 市岡 文代

第24回美術館めぐり

2022/11/30 実施

昨年11月30日に一年ぶりの美術館めぐりを実施しました。長引くコロナ禍で団体を受入れてくれない美術館が多い中、2018年にオープンした半蔵門ミュージアムは大人数でなければ大丈夫ですとの返事。地図で調べるとすぐ近くに日本カメラ博物館とJCIIフォトサロンがありました。

三館は地下鉄半蔵門駅のすぐ傍にあり交通の便もよさそうです。さっそく参加者を募り会員十名で都心のミュージアムめぐりをしてきました。

半蔵門ミュージアムは仏教美術を公開している無料の美術館です。常設展ではガンダーラ（現パキスタンおよびアフガニスタン）で作られた釈迦の生涯と説法を浮彫にした珍しい石の作品が並んでいました。重要文化財で運慶作と伝えられている美術館の目玉の「大

日如来坐像」が他館に貸出中で見られないのが残念でしたが、三階にあるシアターでは解説付きの画像が観られて行き届いた配慮が感じられました。又特集展示の「仏教美術の精華」も見応えがありました。

その後は日本カメラ博物館に行きフリージャーナリストの高島鎮雄さんの特別展「私が集めたカメラの歴史 私的カメラコレクション」や常設展を見学。高島氏が半生を捧げて蒐集したカメラの数々に皆さんは見入ったり懐かしがったりしていました。最後は、お隣にあるフォトサロンを見学。ここは白黒写真に限って一カ月単位で企画展を開催しています。当日は本間鉄雄氏の作品が多数展示されていて昭和の匂いのする映像に皆さんは足を止めて観ていました。

友の会会員 山田他美子



第24回ゆうゆう版画美術館まつり報告

開催：2022-10/22(土)・23(日)
主催：ゆうゆう版画美術館まつり運営委員会
(美術館・友の会共催)

好天に恵まれ「第24回ゆうゆう版画美術館まつり」は開催。今回もコロナ禍の中、運営委員会及び各催事担当者の協力で、感染症対策を実施しながらも活気に満ちた催事に。恒例の「木版画摺り体験」「ゆうゆうコンサート」「ポスターデザイン展」「市域学生によるアートイベント」、更に福祉作業所の参加、町田サポーターズの応援、シャトルバスの運行、来場者4,800名からの喜びの声があり、「まつり」は無事に終了となりました。

まつり運営委員会 報告

編集後記

西洋のキリスト教が支えてきた文化の流れって、
相当に論理的で筋が通っているのかも知れない。
欧米諸国の方の圧倒的な行動力は、なかなか理解
ができないけれど、こちらに答えがあるのかな
あ。(?)『自然という書物』から (mm)

編集スタッフ：大西均・井戸上千鳥・武藤充

2022年度・事務局だより

- *理事会 2022/5/28・2023/1/31
- *第25回定期総会 2022/5/28
- *合同部会
2022/6/28・8/5・10/4・11/29・2023/2/28
- *まつり運営委員会・催事リーダー会
2022/5/28・9/6・10/18・12/6
- *第24回ゆうゆう版画美術館まつり
2022/10/22・23
- *会員展実行委員会 2023/2/3・3/3
- *美術館めぐり ①2022/11/30(永田町)
②2023/3/1(天王洲アイル)
- *森のコンサート 2023/3/19
- *第24回会員展 2023/3/14～3/19
- *アートスクール・木版画講座・絵画教室
・銅版画講座 開講

特集展示

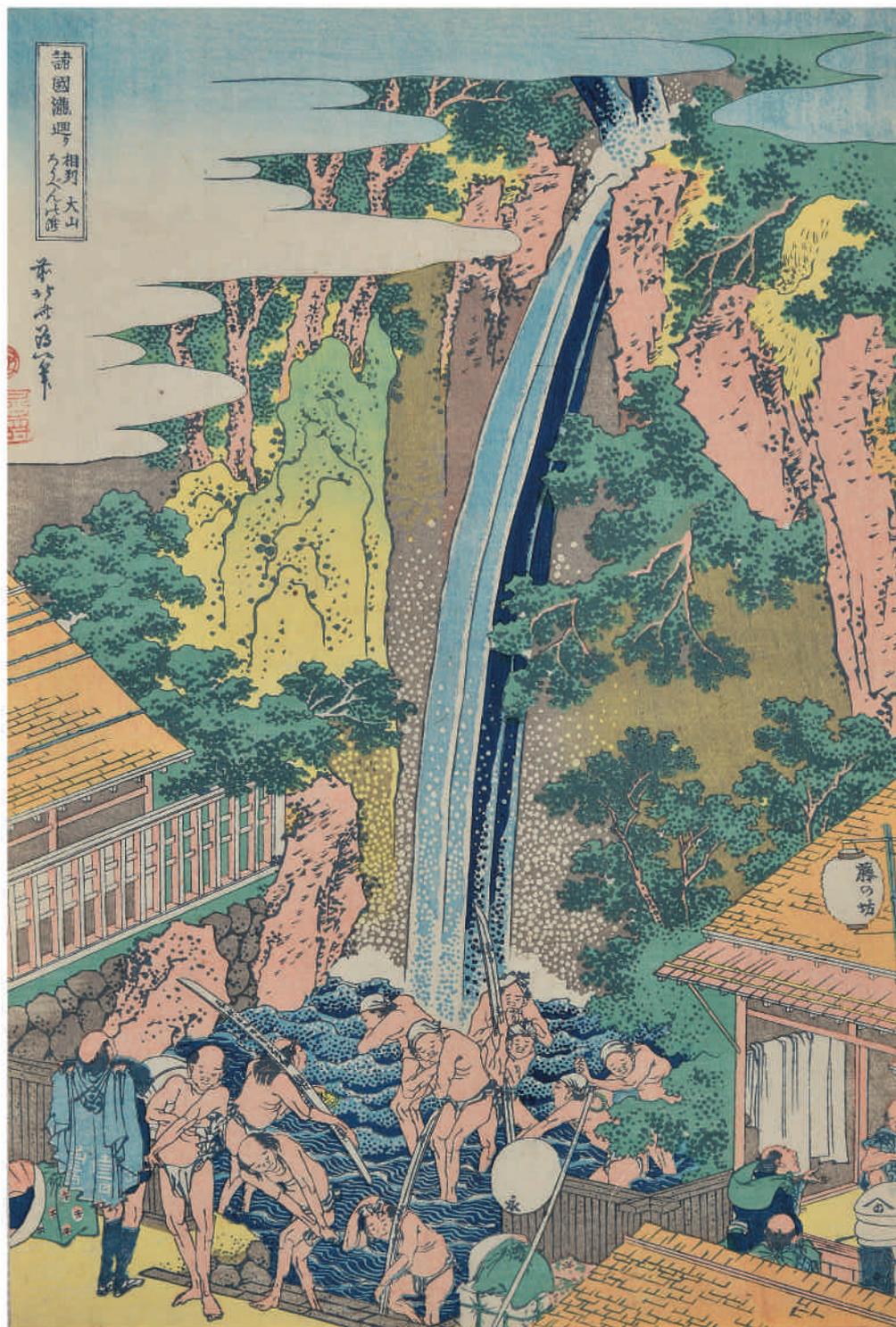
2023年3月15日(水)～6月11日(日)

前期:3月15日(水)～4月30日(日)

後期:5月2日(火)～6月11日(日)

観覧料:無料

日本の自然と多色摺木版の世界



葛飾北斎
「諸国滝廻り」
相州大山ろうべんの滝
天保4年(1833)頃、大判錦絵、
当館蔵

山水や花鳥といった自然のモチーフは、古くから日本の絵画の主要な画題として描かれてきました。江戸時代の版画の歴史をふりかえると、当初は中国からもたらされた明清時代の画譜、たとえば『芥子園画伝』や『八種画譜』が、自然を描くための絵手本として活用されていました。

そのうち日本国内でも本格的な多色摺の画譜や絵本が制作されるようになり、19世紀には浮世絵の花鳥画や風景画が流行。北斎や広重の色鮮やかな浮世絵を手にした人々は、豊かな自然の世界を心の中でふくらませたのでしょう。

本展では、国際版画美術館が誇る版本コレクションに加え、近年新たに収蔵、寄託された浮世絵を通して、日本の版画と版本にあらわされた自然を紹介します。前期・後期で展示替えがあります。

(学芸員 村瀬可奈)